

1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
10

# 2015年度 第3回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録（確定稿）

- 開催日時：2015年9月8日（火）18時30分～20時30分
- 開催場所：田無総合福祉センター 第3会議室（4階）
- 出席委員：五十嵐強、荘雄一朗、辻信明、野崎信行、渡辺裕一  
＜以上5名、敬称略、五十音順＞
- 出席職員：丸木福祉活動推進課長、中澤ボランティア・市民活動センター係主任、嶋田主事、長山コーディネーター

11  
12  
13

## 【配布資料】

- 資料 1：西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告(2015年7～8月) P1  
資料 2：コーディネート状況等月次報告(2015年7月～8月) P2  
資料 3：ボランティアコーディネート実績(2015年7～8月) P3～6  
資料 4：2015年度西東京ボランティア・市民活動センター予定表（9～10月）P7  
資料 5：2015年度第2回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録  
＜未定稿＞ P8～13  
資料 6：ボランティア・市民活動センターの今後の方向性について P14～15  
資料別冊：2015年度第1回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録＜確定稿＞  
配布資料1：夏！体験ボランティア西東京2015交流会資料一式  
配布資料2：ぼらんていあ倶楽部第86号

14  
15  
16  
17  
18  
19  
20  
21  
22  
23  
24  
25  
26  
27  
28  
29

## 1. 報告事項

### (1). 2015年度7月～8月西東京ボランティア・市民活動センター業務報告について

- 事務局より資料1～4に基づき、2015年7月から2015年8月末までの業務について報告を行う。
- 以下、質疑、協議が行われる。
- 委員長：ご意見、ご質問をお願いしたい。
- 委員：職員研修の内容を伺いたい。
- 事務局：基本的な知識の習得の他、他地区の状況などを知ると共に、今後の課題などの話を聞いて、連携等により打破する方法などを話し合った。これまでに行われてきた研修のまとめとして、とても充実した研修であった。
- 委員長：今後の課題について、詳しく聞かせてほしい。
- 事務局：ボランティアについて周知していくこと、オリンピック開催に伴う、ボランティアの確保などの話があった。また今後の取り組み方について、これまでのように待っているだけではなく、積極的な動きをしていかないとだめであるということが話された。
- 委員：ボランティア・市民活動センター自体に手詰まり感があるのではないか。今までの枠組みでは役割が果たせなくなってきている状況の中では、新しい手を打っていかないといけないと感じている。

1 事務局：ひとつの例としてであるが、最近になり全国社会福祉協議会より今後のあり方を強化方策と  
2 してまとめたもの（ボランティア・市民活動センター強化方策 2015）が出され、「多者協働の  
3 取り組み」をボランティア・市民活動センターが重点的に取り組むべきポイントのひとつとし  
4 て示している。多くの人や団体とつながって、問題をみんなで考えて解決していくにあたって  
5 は、その中核的な役割をボランティア・市民活動センターが果たしていかないと、今後行き詰  
6 っていくということが言われており、このような視点をボランティア・市民活動センターの職  
7 員が持たないとセンターの機能を地域の中で発揮することができなくなるのではないかと  
8 いったことが言われているようだ。

9 委員：後の議論にも関係するが、職員の専門性に加え、新しい発想、アイディア、今までなかった  
10 ものを作り出していくためのノウハウといったものが求められていると思う。このことをどの  
11 ように考えて、計画に位置付けていくかという点についてはとても大切だと思う。

12  
13 ○事務局より配布資料 1 に基づき夏！体験ボランティア西東京 2015 の報告を行う。

14 委員：参加者の声を聞かせてほしい。

15 事務局：アンケートの未提出が多いため、再度提出の依頼をしている。揃い次第まとめたい。  
16 参加者の声としては、また参加したいというものが多かった。

17 委員：以前は中学生の参加が多かったように感じる。参加することが義務のようにになっていた時期  
18 があったようだが、今はそのようなことがなくなったのかもしれない。

19 事務局：ボランティア活動をすることで受験に有利になることが以前はあったが、現在はなくなっ  
20 と聞いている。

21 委員：小学生が参加できるメニューは、こちらで作り提案していく必要がある。もしかしたら小学  
22 生ができること、できないことについての思い込みもあるかもしれない。事務局ではできる  
23 ことを把握しているのだから、小学生を受け入れることでできるようになることを提案し、  
24 その場を作っていくことが大切である。また、子どもたちにとっても自分たちの力が活かさ  
25 れたということを感じ取れる場を作っていくことが当センターに求められているのではない  
26 かと思う。

27 委員：子どもの生のやってよかったという声がチラシなどに載っていると、やってみようと思うと  
28 いう気持ちが高まる。子どもたちは、感想を書くことについては授業で慣れているので、書  
29 いてくれるかもしれないし、また子どもたちの声を伝えることで、実際にやったことを広め  
30 ていく効果もある。

31 委員長：夏の体験ボランティアは、ボランティア・市民活動センターが独自で行っているオリジナリ  
32 ティの企画であるので、どう充実させていくかは大切な部分である。社会人の活動の受け皿  
33 にもなっている。

34 委員：社会人についても年齢構成がわかると良い。

35

## 36 2. 審 議 事 項

37

### 38 (1). 2015 年度第 3 回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録(未定稿) について

39 委員長：審議の前に申しあげる。現在資料を事前に送付してもらっているが、開催通知と前回の未定  
40 稿を送付いただいた後、数日後に事前配布資料として、再度前回の未定稿が送付されている。  
41 事前の資料送付は直前になってしまって構わないので、一度で済ませたほうが良いのではな

1 いか。また、当日の配布もいらないのではないか。

2 事務局：今後は、そのようにさせていただく。また事前配布資料を必ずお持ちくださいという一文を  
3 開催通知に付け加え、委員の皆様にご協力いただく。なおやってみて差し障りがあれば再  
4 度ご意見をいただくこととする。

5 ●2015年度第3回運営委員会の記録について確認を行う。確認終了したので確定稿にする。

### 7 3. 協 議 事 項

#### 9 (1). 今後の方向性について

10 ○事務局より資料6について説明を行う。

11 委 員：今後の方向性を考えるにあたっては、地域福祉活動計画を踏まえ考えていく必要があると思  
12 っている。資料（地域福祉活動計画（概要版））をご用意いただいたので、説明をお願いし  
13 たい。

15 ○事務局より地域福祉活動計画（概要版）について説明を行う。

16 委員長：ご意見、ご質問をお願いしたい。

17 委 員：資料6については、いろいろな視点で作られているので、このまま議論を進めるのは難しい  
18 と感じる。特にどの部分を運営委員会として話していくのか。具体的な取り組みの部分なの  
19 か。過去の話なのか。

20 委員長：夏の体験ボランティアは、ボランティア・市民活動センター以外の部署での取り組みがなく、  
21 やることも明確であるが、他の事業はどうか。例えば地域福祉コーディネーターが居場所づ  
22 くりなどに取り組み、地域活動をやっている人もいるが、ボランティア・市民活動センター  
23 はそこにどのように関わることができるのか。ボランティア・市民活動センターはその  
24 ような動きから浮いていないかと感ずることがある。どうしたら、地域福祉コーディネータ  
25 ーやふれまちな活動と連携した取り組みを考えることができるのか。ボランティア・市民活  
26 動センターをどのように機能させるのかといったことが、ボランティア・市民活動センタ  
27 をこれからどうしていくのかといったことにつながるのではないか。

28 事務局：地域福祉活動計画の基本目標を逆に読むと、目的とすることが現在できていない地域が浮か  
29 び上がってくる。このような現実の中でふれまちもほっとネットステーションもそれぞれに  
30 取り組みを行っている。例えばボランティア・市民活動センターが現状を変えるため、地域  
31 の中の活動者を増やしていくことで、ふれまちなどの活動者が増え、結果として地域のつな  
32 がりが増えたり、ボランティア活動をはじめた人が、活躍する場を得ていきいきと過ごすこ  
33 とができるようになるかもしれない。またこのことが、みんなが笑顔で暮らせるまちにつな  
34 がるかもしれない。居場所・人材・情報の3つの切り口で考えれば、居場所づくりに一緒に  
35 取り組むことで、人材となるボランティアを共に増やし、必要な情報の集発信を行うことが  
36 できるかもしれない。ふれまち、ほっとネットステーション、ボランティア・市民活動セン  
37 ターがそれぞれ取り組む部分に加え、重なり合う部分の連携した取り組みを考えるのも大切  
38 だと感じている。

39 委 員：まず、ボランティア・市民活動センターで行っている事業を整理してみてはどうか。今やっ  
40 ていることで事業に落とし込んでいない場合もあるだろうし、なんとなくやっているものが  
41 意外とあるかもしれない。

1 事業名で整理して、アクションプラン作りをすると良いのではないかと感じる。また、プラン  
2 作りの方の予算計上もしっかりとした方がよいと思う。大きな理念や目標はある程度地域福祉  
3 活動計画と共有できると思う。それに向けてどういう事業をやっていくかをつなげられたら  
4 良いと思う。

5 委員長：全体の理念、やり方について話し合わないといけない。夏体験ボランティアは将来の人材の  
6 育成という点で理念が明確であるが、他の事業はやっているものの目指す部分が不明確である  
7 ように感じる。結果につながる仕組みになっていなくてはいけないと思う。そのような中  
8 で西東京レスキューバードの取り組みは、うまくいく模範例になるかもしれないし、このよ  
9 うな事例が必要である。今やっている事業が課題、方向性にどのように結びついているか、  
10 洗いなおした方がよいのかもしれない。そうすることで、テーマと問題が具体的になるの  
11 ではないかと思う。

12 委員：その目標に向かってやるのであれば、その事業をどのようにやっていくかを具体的に書くこ  
13 とになる。今までやっていたようにやるのではなく、例えば夏体験ボランティアでの小学生  
14 の受け入れを例にするならば、小学生の受け入れが減っているという課題に対し、受け入れ  
15 を増やしてもらうためのアイデアを出して、提案していくことをその事業のやり方として  
16 書いていくと、ボランティア・市民活動センターの働きかけのプロセスが職員を含め市民に  
17 も見えるようになると思う。

18 委員長：日常の業務の中で、事業の意味がわかりにくいものがあるのであれば整理して、必要ならば  
19 やめることも大切ではないか。やめることは簡単であるが、何をやるのかが不明確でやめて  
20 しまっただけではいけない。

21 委員：整理が不十分な部分も計画づくりが進んでいくことで整理されていくのではないかと思う。

22 委員長：ほっとネットステーションのコーディネーターが今取り組んでいることが、西東京市の現実  
23 の課題だと思うし、そのことに我々が取り組めるのかが問われているように感じる。ほっと  
24 ネットステーションの職員の取り組みを聞くことで、ニーズをリアルに把握し、そのような  
25 ところからボランティアとは何かイメージを作っていくべきか。何のために取り組んでいるの  
26 かという意識感を持ちたいと思う。

27 委員：地域をふれまの範囲で捉えているので、ボランティア・市民活動センターやほっとネット  
28 からの依頼ごとについても、ふれまの範囲で協力者を見つけ解決したいと思っている。今  
29 のふれまは仲良しサロンのようになっている部分もあり、世話人も高齢化している。新し  
30 い人を入れるのであれば、何をやっているかをはっきりといえるようにしておかないと入っ  
31 てこないと思っているので、そのような活動ができるように心がけている。ボランティア・  
32 市民活動センターが課題や提案に対し具体的にどのようなアプローチをしたのか、結果がど  
33 うなったのか、かかわりを持つことができなかったのかということを知りたい。このような  
34 ことをやるためには、確実に動かないとだめである。例えば校長会でお願いをすることがで  
35 きるのであれば、具体的な動きをするべきだと思う。具体的に動いていくということはすべ  
36 ての事業に対して必要といえることだと思う。

37 委員：福祉については各小学校で取り組んでいるので、ボランティア・市民活動センターから出来  
38 ることを発信していけば広がっていくのではないかと思う。また、西東京レスキューバード  
39 のメンバーには、実際に動いている地域の人として、避難所運営協議会に関わってもらえれ  
40 ばありがたいと思う。地域の課題とニーズをつかんでどのようにつないでいくかが大切であ  
41 る。

1 委員：西東京レスキューバードとしても、ふれまちや避難所運営協議会と連携した取り組みをした  
2 いている。またゆめこらぼを通じて、HUG（避難所運営ゲーム）の実施の手伝いをし  
3 て、各避難所運営協議会との顔つなぎをしており、少しずつやっていることも見えてきたよ  
4 うに感じている。今行っていることは必要とされていることであり、このことができていな  
5 いと成果につながっていかないのだと思う。ボランティアをやっている人は変わり者だと思  
6 われているが、このような世の中ではもったいないと思う。ボランティア・市民活動センタ  
7 ーが必要とされているところ、またうまくいかずに困っている部分がどこなのかをはっきり  
8 させないボランティア・市民活動センターとしての活動の成果を示すことはできないので  
9 はないかと感じる。ボランティア・市民活動センターが今何に困っているのかを聞きたい。  
10 委員長：時間が無くなってしまった。できるだけ議論の時間を増やし方向性を決めていきたい。

## 11 12 13 4. そ の 他

### 14 15 (1). 次回運営委員会開催日程について

16 ●以下の内容を確認した。

17 ■開催日時：11月10日（火）18時30分より

18 ■開催場所：田無総合福祉センター第3会議室（4階）

19 ●以上をもって、2015年度第3回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会の審議、協  
20 議を終了し、閉会した。